

授業科目 NO. 506 老年看護学実習

Gerontological Nursing Practicum

授業の形態： 実習
単位数（時間数）： 4 単位（180 時間）
開講年次・学期： 3 年次・前後期
必修・選択の別： 必修
キーワード： 健康障害を持つ高齢者、認知症高齢者、看護過程、多職種連携・協働、保健・医療・福祉システム、家族看護、老年観

1 金沢医科大学看護学部の到達目標（全科目共通です）

- ① 豊かな人間性と倫理観
- ② 看護学の知識と技術、及び実践力
- ③ 地域志向を視野に入れた専門性の獲得
- ④ 生涯学習能力
- ⑤ 国際的視野の獲得

2 学習目標

1) 一般目標（GIO）

高齢者の特性および全体像（身体的、心理的、社会的）を理解し、その人なりの自律的な生活を支援するために必要な知識と技術を修得する。また、入院・入所高齢者とその家族への看護を通して、高齢者保健・医療・福祉システムの実際を理解し、高齢者の生活を支える多職種協働と看護の役割について学ぶ。さらに、実習全体を通して自己の老年観・倫理観を養う。

2) 行動目標（SBO）※カッコ内の数字は上記の金沢医科大学看護学部の到達目標との関連を示す。

- (1) 高齢者の身体的・心理的・社会的側面を統合し、全体像をとらえ、QOLを維持・向上するための看護過程を展開する。(①②)
- (2) 高齢者の療養・生活を支える家族の現状を知り、必要な援助を考える。(①②)
- (3) 認知症高齢者とのかかわりの実際を知り、自己のかかわり方を振り返る。(①②)
- (4) 施設や病院の概要・現状、多職種の役割の実際を知り、生活環境の違いやその特徴に応じた連携・協働のあり方、看護の役割を考察し、報告・討議する。(②③)
- (5) 高齢者を尊重する態度と自己の老年観・倫理観を発展させようとする態度を修得する。(①)

3 学習内容

実習内容については、実習要項に示す。

4 評 価

評価項目	評価割合
定期試験成績	%
実習成績	100%
レポート	%
授業態度	%
小テスト	%
その他	%
合計	100%

(特記事項)

5 教育担当者

科目責任者 : 平松 知子

教 授 平松 知子 (老年看護学)
 准 教 授 橋本 智江 (老年看護学)
 嘱 託 講 師 直井 千津子 (老年看護学)
 助 教 岩本 陽子 (老年看護学)

6 教育担当者の実務経験

教育担当者は全員看護師としての実務経験を有している。

7 教 科 書

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 (医学書院)
 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 (医学書院)

8 推 薦 参 考 書

- 1) 山田律子・井出訓：生活機能からみた老年看護過程 病態・生活機能関連図 (医学書院)
 - 2) 奥宮暁子・安川揚子他：生活機能のアセスメントにもとづく老年看護過程 (医歯薬出版)
 - 3) 中島紀恵子他：認知症の人びとの看護 第3版 (医歯薬出版)
 - 4) 本田美和子・イヴ・ジネスト他：ユマニチュード入門 (医学書院)
- その他、実習中に適宜紹介する。

9 準備学習に必要な時間及び具体的な学修内容

- 1) 実習要項を熟読しておくこと。
- 2) 老年看護学概論、老年看護学方法論Ⅰ、Ⅱの講義資料や教科書で以下の復習を行う。
 - ①加齢に伴う変化と日常生活への影響
 - ②老年看護過程の展開の特徴
 - ③高齢者および認知症高齢者とのコミュニケーションのとり方

④高齢者が療養・生活する施設・病院の概要と特徴

10 課題（試験やレポート等）に関するフィードバック

実習記録を毎日確認し、コメントする。

カンファレンスや提出された課題により、到達度や今後の課題についてフィードバックする。

11 履修上の注意事項

- 1) 疑問や困っていることは自ら表現し、主体的に課題を解決しながら実習を進める姿勢で臨むこと。
- 2) グループワークやカンファレンスにおいてはメンバーと協力し積極的に取り組むこと。
- 3) 健康管理には十分注意し、発熱や風邪症状・下痢等がみられる場合は実習施設には行かずに、担当教員に連絡をして指示に従うこと。

12 オフィスアワー等

実習前の実習に関する相談や質問は随時対応しますが、事前にメールで都合を確認すること。

岩本 otoitu@kanazawa-med.ac.jp

なお、実習中の担当教員への連絡方法については、オリエンテーション時に伝達する。